

「令和7年度構造設計一級建築士講習」 考査問題及び修了判定の概要について

(公財) 建築技術教育普及センターが令和7年11月23日に実施した令和7年度構造設計一級建築士講習の考査問題及び修了判定の概要は、以下のとおりである。

1. 考査問題の概要

(1) 考査問題の構成

修了考査は、建築士法（平成20年11月28日施行）別表第1（一）の項の科目の欄に掲げる科目として定められている「イ 構造関係規定に関する科目」及び「ロ 建築物の構造に関する科目」に対応するものとして、『法適合確認』及び『構造設計』の二つの区分により構成されている。各考査区分の出題形式、出題科目等は、次のとおりである。

△	考査区分	出題形式	出題科目	出題数	考査時間
午前	法適合確認	選択理由記述式4肢択一問題及び記述式問題	構造関係規定に関する科目	4肢択一式：10問 記述式問題：3問	3時間
午後	構造設計	選択理由記述式4肢択一問題及び記述式問題	建築物の構造に関する科目	4肢択一式：10問 記述式問題：3問	3時間

(2) 考査問題の概要

科目	出題概要
法適合確認	<p>【選択理由記述式4肢択一問題】 建築基準法等の構造関係規定上、最も不適当な肢を4肢の中から選択し、不適当とする理由を記述する問題。荷重・外力に関する問題、鉄筋コンクリート造・鉄骨造等の主な構造方法に関する問題等、万遍なく出題。（10問）</p> <p>【記述式問題】</p> <ul style="list-style-type: none">8階建て鉄筋コンクリート造建築物を対象とした増分解析に関する問題で、①7階の保有水平耐力を算出する問題、②必要保有水平耐力算定時に、地震力によって1階に生じる水平力を算出する問題、③1階柱の部材種別を判定する問題、④塑性ヒンジ発生後における柱のせん断力の最大値を算出する問題、⑤曲げ破壊型に求められるせん断耐力の最小値を算出する問題、⑥1階の柱の部材群の種別を判定し、判定理由を記述する問題、⑦1階の構造特性係数を判定し、判定理由を記述する問題、⑧地震時に、曲げ圧縮破壊が生じ、コンクリートが圧壊して小さな変形下で最も耐力低下が危惧される柱を選択し、耐力低下を防止する対策として有効と考えられる方法を記述する問題。（1問）一貫構造計算プログラム及び木造トラスにおける合掌尻に関する複合問題で、[No. 1] 屋根面プレースのある平屋の鉄骨建築物の一貫構造計算プログラムにおける①断面検討不足事項及び②追加検討事項について記述する問題。[No. 2] 木造トラスの合掌尻の長期許容耐力を算出する問題。（1問）2階建て鉄骨造建築物を対象とした耐震設計に関する問題で、[No. 1] 耐震計算ルート3を適用する場合の、各接合部及び階における柱梁耐力比を算出し、予想される崩壊形を判定する問題、[No. 2] 耐震計算ルート3を適用する場合の、各階の柱及び梁の部材群としての種別を判定し、構造特性係数を算出する問題、[No. 3]

	大梁端部での脆性破壊を防止し、安定した塑性変形能力を確保するため、柱梁接合部の仕口部における「構造設計」及び「鉄骨製作」それぞれの段階で特に留意すべき点や対策(採用する工法や材料選定等)について記述する問題。(1問)
科目	出題概要
構造設計	<p>【選択理由記述式 4 肢択一問題】 建築物の構造に関して、最も不適当な肢を4肢の中から選択し、不適当とする理由を記述する問題。構造力学、建築物の地震時の応答、各種構造、地盤・基礎、耐震診断・耐震補強等の基本的事項について出題。(10問)</p> <p>【記述式問題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・单層門形鉄骨架構のトラス梁座屈等に関する問題で、[No. 1] ①柱頭にそれぞれ水平力 $P/2$ を受ける場合の曲げモーメント図及びせん断力図を記述する問題、②トラス部材の軸力を算出する問題。[No. 2] ①トラス梁の最初に座屈する部材と、その後最初に引張降伏する部材を記述する問題、②トラス梁の降伏曲げ耐力、座屈曲げ耐力、座屈後の安定曲げ耐力を算出する問題、③部材が最初に座屈するときの荷重を算出する問題、④座屈後終局耐力を算出する問題。[No. 3] 節点 K の接合部の納まりをスケッチする問題。(1問) ・鉄筋コンクリート造の柱梁接合部に関する問題で、[No. 1] 接合部に作用するせん断力の算出式を導く空欄①～⑥に入る数式及び記号を記述する問題。[No. 2] 梁端に曲げ降伏後のせん断破壊が生じた場合の、梁のひび割れ状況を記述する問題。[No. 3] 柱梁接合部にせん断ひび割れが生じた場合の、柱梁接合部のひび割れ状況を記述する問題。[No. 4] 柱梁接合部の短期許容せん断耐力を増加させる有効な方法を記述する問題。(1問) ・免震ピットの立上り壁に作用する外力及び SC 杭の応力分布等に関する問題で、[No. 1] ①立上り壁に作用する土圧、水圧、土圧と水圧の合計を算出しグラフを記述する問題、② ①の結果を用いて、立上り壁脚部の幅 1mあたりに常時作用するせん断力算出する問題。[No. 2] ①SC 杭の杭の特性値を算出する問題、②SC 杭の曲げモーメント分布を、完全固定及び固定度 0.5 の 2 つのケースについて記述する問題。(1問)

2. 修了判定の概要

(1) 基本事項

- ① 修了判定は、講義の出席状況及び修了考査の結果に基づき行う。
- ② 修了考査は、『法適合確認』及び『構造設計』の科目区分により実施し、それぞれ所定の評価を受けた場合、「科目合格」の取扱いとする。
- ③ 「講義の全課程出席」、かつ、「修了考査の法適合確認及び構造設計のいずれも科目合格」に該当する場合に限り、講習を修了したものと判定する。ただし、以下の項目に該当する者については、それぞれここに記した場合に修了したものと判定する。
 - ア) 「構造計算適合性判定資格者」の資格を有する受講者であって事前に当センターが認めた者にあっては、『第I編 第1章』及び『第II編 第2章』を受講した場合。
 - イ) 令和5年度、令和6年度の構造設計一級建築士講習における修了考査を受験し、修了判定において未修了とされ、かつ、『法適合確認』又は『構造設計』のいずれか一方について科目合格となった者にあっては、当該修了考査で科目合格とならなかった科目について修了考査（令和7年1月23日実施）において合格となった場合。

(2) 修了判定の方法

- ① 講義については、すべての講義時間において「欠席」に該当しなかった場合には「講義の全課程出席」、すべての講義時間のうち一つでも「欠席」に該当した場合には「講義欠席」とそれぞれ判定する。

② 修了考査については、表1の考査区分ごとの採点のポイントに基づき採点された結果を基にして、表2のとおり合否を判定する。

表1 採点のポイント

考査区分	採点のポイント
法適合確認	① 構造関係規定の理解度、解釈能力 ② 建築関係基準の一般的理解力 ③ 構造図面の理解度、判読能力 ④ 建築図面の一般的理解力 ⑤ 計算書等の理解力、計算能力 ⑥ 法適合確認に関する指摘を的確に表現する能力
構造設計	① 構造設計に関する理解力 ② 建築物に関する荷重・外力、構造力学・解析、構造材料、構造計画の理解力 ③ 木造の特性等に関する理解力 ④ 鉄筋コンクリート造の特性等に関する理解力 ⑤ 鉄骨造の特性等に関する理解力 ⑥ 構造設計に関する知識を的確に表現する能力

表2 合否の判定方法

考査区分・出題形式	合否判定
法適合確認 ・選択理由記述式4肢択一問題： 10問 ・記述式問題： 3問	<ul style="list-style-type: none"> ・選択理由記述式4肢択一問題10問の評価の合計が一定以上であるかどうか判定する。 ・記述式問題3問について、問題ごとの評価が一定以上であるかどうか判定する。 ・選択理由記述式4肢択一式問題10問及び記述式問題3問の評価の合計が一定以上であるかどうか判定する。 ・上記をすべて満たした場合、「法適合確認」は科目合格となる。
構造設計 ・選択理由記述式4肢択一問題： 10問 ・記述式問題： 3問	<ul style="list-style-type: none"> ・選択理由記述式4肢択一問題10問の評価の合計が一定以上であるかどうか判定する。 ・記述式問題3問について、問題ごとの評価が一定以上であるかどうか判定する。 ・選択理由記述式4肢択一式問題10問及び記述式問題3問の評価の合計が一定以上であるかどうか判定する。 ・上記をすべて満たした場合、「構造設計」は科目合格となる。